

藤女子大学の名称の変更について（届出）

2024年4月25日

文 部 科 学 大 臣 殿

藤女子大学
学長 渡邊 頼純

このたび、下記の事項について、学校教育法施行規則第2条第1項第1号の規定により、別紙書類を添えて届け出ます。

記

- ・ 人間生活学部の名称の変更（ウェルビーイング学部）
- ・ 人間生活学科の名称の変更（地域創生学科）
- ・ 食物栄養学科の名称の変更（食環境マネジメント学科）

なお、学則については、全文をホームページ上で公表しており、添付を省略します。

名 称 変 更 の 概 要

事項	記入欄																											
計画の区分	学部及び学部の学科の名称変更																											
フリガナ 設置者	ガッコウホウジシン フジテンシカクエン 学校法人 藤天使学園																											
フリガナ 大学の名称	フジジヨウダガク 藤女子大学 (Fuji Women's University)																											
名称変更の内容	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left; width: 50%;">(現在の名称)</th> <th style="text-align: left; width: 10%;"></th> <th style="text-align: left; width: 40%;">(変更後の名称)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>人間生活学部</u></td> <td style="text-align: center;">→</td> <td><u>ウェルビーイング学部</u></td> </tr> <tr> <td>英訳名 (Faculty of Human Life Sciences)</td> <td></td> <td>英訳名 (Faculty of Well-being Studies)</td> </tr> <tr> <td><u>人間生活学科</u></td> <td style="text-align: center;">→</td> <td><u>地域創生学科</u></td> </tr> <tr> <td>英訳名 (Department of Human Life Studies)</td> <td></td> <td>英訳名 (Department of Regional Well-being)</td> </tr> <tr> <td><u>食物栄養学科</u></td> <td style="text-align: center;">→</td> <td><u>食環境マネジメント学科</u></td> </tr> <tr> <td>英訳名 (Department of Food Science and Human Nutrition)</td> <td></td> <td>英訳名 (Department of Food Environment)</td> </tr> <tr> <td>子ども教育学科</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>子ども教育学科</td> </tr> <tr> <td>英訳名 (Department of Early Childhood Care and Education)</td> <td></td> <td>英訳名 (Department of Educational Well-being for Children)</td> </tr> </tbody> </table>	(現在の名称)		(変更後の名称)	<u>人間生活学部</u>	→	<u>ウェルビーイング学部</u>	英訳名 (Faculty of Human Life Sciences)		英訳名 (Faculty of Well-being Studies)	<u>人間生活学科</u>	→	<u>地域創生学科</u>	英訳名 (Department of Human Life Studies)		英訳名 (Department of Regional Well-being)	<u>食物栄養学科</u>	→	<u>食環境マネジメント学科</u>	英訳名 (Department of Food Science and Human Nutrition)		英訳名 (Department of Food Environment)	子ども教育学科	→	子ども教育学科	英訳名 (Department of Early Childhood Care and Education)		英訳名 (Department of Educational Well-being for Children)
(現在の名称)		(変更後の名称)																										
<u>人間生活学部</u>	→	<u>ウェルビーイング学部</u>																										
英訳名 (Faculty of Human Life Sciences)		英訳名 (Faculty of Well-being Studies)																										
<u>人間生活学科</u>	→	<u>地域創生学科</u>																										
英訳名 (Department of Human Life Studies)		英訳名 (Department of Regional Well-being)																										
<u>食物栄養学科</u>	→	<u>食環境マネジメント学科</u>																										
英訳名 (Department of Food Science and Human Nutrition)		英訳名 (Department of Food Environment)																										
子ども教育学科	→	子ども教育学科																										
英訳名 (Department of Early Childhood Care and Education)		英訳名 (Department of Educational Well-being for Children)																										
名称変更の時期	令和7年 4月 1日																											
新名称の対象年次	第1年次																											

名称変更の理由

【学部名称変更について】

藤女子大学人間生活学部は、平成4年4月に人間生活学科と食物栄養学科の2学科が設置され、平成12年4月に保育学科（令和2年に子ども教育学科に改組）を設置し、3学科体制となった。学部の教育目的は「生命及び人間の尊厳と個人の多様な生き方を尊重し、他者と共存しつつ自立した生活を送り、人間と社会及び自然の相互関係に対する洞察に基づいて、多様化・複雑化してゆく生活の諸課題に責任を持って対処し、国際関係を越えた地球の視野から生活の諸問題を実践的に対処することのできる人材を育てること」である。これまで人間生活学部では、この教育目的に基づいて、グローバルかつローカルな視野を持って教育・研究活動を進めてきた。近年、このような理念を、ウェルビーイングという理念として捉え直し、人間の生活に関する社会課題を、文理融合・多領域横断型で探究する動きが見られるようになってきた。一般に、ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良い状態にあることを意味している。それは、短期的な幸福だけでなく、生活者としての生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念でもある。それは、地域・社会のなかで、多様な人間が、それぞれの幸せや生きがいを感じ、人生の充実と豊かさを感じられる「良い状態」を含意している。近年、ウェルビーイングという言葉は、福祉・健康・医療の領域にとどまらず、教育・経済・経営の分野でも積極的に使用され、時代の重要なキーワードの1つになっている。人間生活学部がこれまで多領域横断型で蓄積してきた研究をいっそう充実させ、近未来社会の創造者を育てる教育を充実させるために、今日において、その内実がよりわかりやすい名称が必要である。今回の名称変更において、地域創生学科ではリージョナル・ウェルビーイング、食環境マネジメント学科ではフード&ライフ・ウェルビーイング、子ども教育学科ではチャイルド・ウェルビーイングをそれぞれコアとして、学部の教育目的の実現に資する教育課程を構築している。本学の人間生活学部が発足したとき以来、本学部ではこのような人間生活の実現に寄与できる人材の育成を目指してきたが、今日「人間生活」という名称が受験生や社会一般にあまり浸透せず、その内容が理解されにくくなってきた。学部創設時の理念を一層明確に打ち出すために学部名称を「ウェルビーイング学部」に変更することとする。

【学科名称変更について】

人間生活学部人間生活学科は、平成4年4月に、家政系の学科として設置認可された。本学科は教育目的として「広く共生社会の実現に貢献するため、多様な価値観を持つ他者との協働的な取り組みを通じて、生活と社会の諸課題にしなやかに向き合い行動し続ける女性の育成」を掲げている。開設当初より中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭）が取得可能となっており、北海道の家庭科教員養成の中核を担っている。衣食住、家庭経営、福祉、子ども発達等を中心とした生活科学を基盤とし、プロジェクトマネジメントに関する専門的知識と実践的能力を総合的に身に付け、さらに時代に即したAI・データサイエンスを学び活用することで地域の課題解決や支援に取り組み、中学校・高等学校教員を含む社会人として広く地域社会で活躍できる人材の育成を目指している。この度、学科の教育目的をよりわかりやすく表現した「地域創生学科」に名称変更する。

人間生活学部食物栄養学科は、平成4年4月に、栄養士養成課程の学科として設置認可された。本学科は教育目的として「健康・栄養情報をリアルタイムにとらえ、それを人のこころに共感しながらやさしく伝えることで生活の質の向上と社会に貢献できる管理栄養士を送り出すこと」を掲げている。平成8年には、管理栄養士養成学校の指定を受け、現在まで多くの管理栄養士を輩出している。食に関する実験・実習もカリキュラムに多めに取り入れており、産学官連携による農作物を活かす商品開発などもゼミ活動で行っている。そのような経験を活かし、食品業界などへの就職も多い。管理栄養士養成学校指定のため、カリキュラムに関しては大きく変更することはできないが、管理栄養士等の資格を土台としつつ食環境のマネジメントを学ぶことができる学科であることを示すため、「食環境マネジメント学科」に名称変更を行う。

【新名称の対象年次を第1年次からとする理由】

開設当初より今に至るまで、社会・時代のニーズや資格等の法改正に合わせ、定期的にカリキュラム改正を実施して学科専門科目の教育内容の改善を図ってきている。学部名称変更に合わせて、学科とウェルビーイングの関係性を理解するための科目を各学科に設置した。また、令和7年度より、教養科目を基盤教育科目として再構成する。教育目的、学位の種類及び分野も変更はないが、以上の理由により第1年次からの名称変更とする。

在校生への対応

在校生については、卒業まで入学時の学部・学科名称で対応する。学部・学科名称の変更については、在学生にはガイダンスの時間を利用し、説明予定である。

藤女子大学学則の一部改正（案）新旧対照表

改正案	現 行																								
<p>第1章 総則</p> <p>第1条～第3条 （省略）</p> <p>（学部、学科）</p> <p>第4条 本学に、次の学部学科を置く。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">学 部</th> <th style="width: 85%;">学 科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">文 学 部</td> <td>英 語 文 化 学 科</td> </tr> <tr> <td>日 本 語 ・ 日 本 文 学 科</td> </tr> <tr> <td>文 化 総 合 学 科</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ウェルビーイング学部</td> <td>地 域 創 生 学 科</td> </tr> <tr> <td>食環境マネジメント学科</td> </tr> <tr> <td>子 ども 教 育 学 科</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人間生活学部</td> <td>人 間 生 活 学 科</td> </tr> <tr> <td>食 物 栄 養 学 科</td> </tr> <tr> <td>子 ども 教 育 学 科</td> </tr> </tbody> </table> <p>（学部、学科の目的）</p> <p>第4条の2 第1項（省略）</p> <p>2 <u>ウェルビーイング学部</u>は、生命及び人間の尊厳と個人の多様な生き方を尊重し、他者と共存しつつ自立した生活を送り、人間と社会及び自然の相互関係に対する洞察に基づいて、多様化・複雑化してゆく生活の諸課題に責任を持って対処し、国際関係を越えた地球的視野から生活の諸問題を実践的に対処することのできる女性を育てる。</p> <p>(1) <u>地域創生学科</u>は、広く共生社会の実現に貢献するため、多様な価値観をもつ他者との協働的な取り組みを通して、日常生活の課題にしなやかに向き合い、行動し続ける女性の育成を目的とする。そのために、生活・福祉に関わる知識や技能、それらをつなげるプロジェクトを運営する実践力を養うことを目指す。</p> <p>(2) <u>食環境マネジメント学科</u>は、人間生活（ヒューマン・ライフ）の視点から、人と人との関わりの中でとらえた食と栄養の教育・研究を目指している。そのために、入門から専門への段階を踏んだカリキュラムに従い教育・探究し、その過程で情報リテラシー、思考力</p>	学 部	学 科	文 学 部	英 語 文 化 学 科	日 本 語 ・ 日 本 文 学 科	文 化 総 合 学 科	ウェルビーイング学部	地 域 創 生 学 科	食環境マネジメント学科	子 ども 教 育 学 科	人間生活学部	人 間 生 活 学 科	食 物 栄 養 学 科	子 ども 教 育 学 科	<p>第1章 総則</p> <p>第1条～第3条 （省略）</p> <p>（学部、学科）</p> <p>第4条 本学に、次の学部学科を置く。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">学 部</th> <th style="width: 85%;">学 科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">文 学 部</td> <td>英 語 文 化 学 科</td> </tr> <tr> <td>日 本 語 ・ 日 本 文 学 科</td> </tr> <tr> <td>文 化 総 合 学 科</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人間生活学部</td> <td>人 間 生 活 学 科</td> </tr> <tr> <td>食 物 栄 養 学 科</td> </tr> <tr> <td>子 ども 教 育 学 科</td> </tr> </tbody> </table> <p>（学部、学科の目的）</p> <p>第4条の2 第1項（省略）</p> <p>2 <u>人間生活学部</u>は、生命及び人間の尊厳と個人の多様な生き方を尊重し、他者と共存しつつ自立した生活を送り、人間と社会及び自然の相互関係に対する洞察に基づいて、多様化・複雑化してゆく生活の諸課題に責任を持って対処し、国際関係を越えた地球的視野から生活の諸問題を実践的に対処することのできる女性を育てる。</p> <p>(1) <u>人間生活学科</u>は、広く共生社会の実現に貢献するため、多様な価値観をもつ他者との協働的な取り組みを通して、日常生活の課題にしなやかに向き合い、行動し続ける女性の育成を目的とする。そのために、生活・福祉に関わる知識や技能、それらをつなげるプロジェクトを運営する実践力を養うことを目指す。</p> <p>(2) <u>食物栄養学科</u>は、人間生活（ヒューマン・ライフ）の視点から、人と人との関わりの中でとらえた食と栄養の教育・研究を目指している。そのために、入門から専門への段階を踏んだカリキュラムに従い教育・探究し、その過程で情報リテラシー、思考力・問題解決</p>	学 部	学 科	文 学 部	英 語 文 化 学 科	日 本 語 ・ 日 本 文 学 科	文 化 総 合 学 科	人間生活学部	人 間 生 活 学 科	食 物 栄 養 学 科	子 ども 教 育 学 科
学 部	学 科																								
文 学 部	英 語 文 化 学 科																								
	日 本 語 ・ 日 本 文 学 科																								
	文 化 総 合 学 科																								
ウェルビーイング学部	地 域 創 生 学 科																								
	食環境マネジメント学科																								
	子 ども 教 育 学 科																								
人間生活学部	人 間 生 活 学 科																								
	食 物 栄 養 学 科																								
	子 ども 教 育 学 科																								
学 部	学 科																								
文 学 部	英 語 文 化 学 科																								
	日 本 語 ・ 日 本 文 学 科																								
	文 化 総 合 学 科																								
人間生活学部	人 間 生 活 学 科																								
	食 物 栄 養 学 科																								
	子 ども 教 育 学 科																								

・問題解決能力、コミュニケーション能力、専門能力を高め、柔軟にして科学的・客観的なもの見方ができる女性を育成する。その結果、健康・栄養情報をリアルタイムにとらえ、それを人のこころに共感しながらやさしく伝えることで生活の質の向上と社会に貢献できる管理栄養士を送り出すことを目的としている。

- (3) 子ども教育学科では、人が人として成長していくための基礎を築き上げる時期である乳児期から児童期の子どもの成長や子どもにかかわる人びとを支えるために必要な学びを得ることができるカリキュラムを構成しており、地域社会に貢献できる幅広い視野を持ちながら、乳幼児期の子どもと就学後の子どもの教育を連続的に捉えることができる教育者の養成を目指している。4年間の学びを通して、子どもの発達¹の連続性・子どもを取り巻く人びとや社会の状況・各関係機関との連携のあり方などを総合的に捉える思考力を身につけ、学生自らが人間的成長を遂げることができる教育によって、子どもに深くかかわる専門家や、さまざまな立場から子どもの周囲にいる人びとを支えることで社会に貢献する人材を送り出すことを目的としている。

第5条 (省略)

(収容定員)

第6条 第4条に定める各学部学科の入学定員及び収容定員並びに所在地は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員	所在地
文学部	英語文化学科	90名	360名	札幌市北区北16条西2丁目1番1号
	日本語・日本文学科	90名	360名	
	文化総合学科	90名	360名	
ウェルビーイング学部	地域創生学科	50名	200名	石狩市花川南4条5丁目7番地
	食環境マネジメント学科	80名	320名	
	子ども教育学科	80名	320名	
人間生活学部	人間生活学科	-	-	石狩市花川南4条5丁目7番地
	食物栄養学科	-	-	
	子ども教育学科	-	-	

第2章 (省略)

第3章 授業科目及び単位

能力、コミュニケーション能力、専門能力を高め、柔軟にして科学的・客観的なもの見方ができる女性を育成する。その結果、健康・栄養情報をリアルタイムにとらえ、それを人のこころに共感しながらやさしく伝えることで生活の質の向上と社会に貢献できる管理栄養士を送り出すことを目的としている。

- (3) 子ども教育学科では、人が人として成長していくための基礎を築き上げる時期である乳児期から児童期の子どもの成長や子どもにかかわる人びとを支えるために必要な学びを得ることができるカリキュラムを構成しており、地域社会に貢献できる幅広い視野を持ちながら、乳幼児期の子どもと就学後の子どもの教育を連続的に捉えることができる教育者の養成を目指している。4年間の学びを通して、子どもの発達¹の連続性・子どもを取り巻く人びとや社会の状況・各関係機関との連携のあり方などを総合的に捉える思考力を身につけ、学生自らが人間的成長を遂げることができる教育によって、子どもに深くかかわる専門家や、さまざまな立場から子どもの周囲にいる人びとを支えることで社会に貢献する人材を送り出すことを目的としている。

第5条 (省略)

(収容定員)

第6条 第4条に定める各学部学科の入学定員及び収容定員並びに所在地は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員	所在地
文学部	英語文化学科	90名	360名	札幌市北区北16条西2丁目1番1号
	日本語・日本文学科	90名	360名	
	文化総合学科	90名	360名	
人間生活学部	人間生活学科	50名	200名	石狩市花川南4条5丁目7番地
	食物栄養学科	80名	320名	
	子ども教育学科	80名	320名	

第2章 (省略)

第3章 授業科目及び単位

(授業科目)

第10条 (省略)

第11条 ウェルビーイング学部の授業科目は、基盤教育科目、学科専門科目及び教職に関する科目とする。

2 ウェルビーイング学部の授業科目とその単位数は、別表第1(1)、別表第1(2)②、別表第4(1)から別表第4(4)及び別表第5(2)のとおりとする。

第11条の2 (省略)

第12条～第17条 (省略)

第4章 履修方法及び卒業の要件

第18条～第20条 (省略)

(学位の授与)

第21条 本学を卒業した者には、卒業証書を授与するとともに学士の学位を授与する。

2 本学において授与する、学士の学位に付記する専門分野の名称は、次のとおりとする。

文 学 部	英語文化学科	学士(文学)
	日本語・日本文学科	学士(文学)
	文化総合学科	学士(文学)
<u>ウェルビーイング学部</u>	<u>地域創生学科</u>	学士(人間生活学)
	<u>食環境マネジメント学科</u>	学士(食物栄養学)
	子ども教育学科	学士(教育学)

第22条～第22条の4 (省略)

(削除)

(管理栄養士国家試験受験資格の取得)

第22条の6 食環境マネジメント学科の学生で管理栄養士国家試験受験資格を取得しようとする者は、栄養士法及び管理栄養士学校指定規則の定めるところに従って、本学が定めた所定の科目について、必要な単位を修得しなければならない。

(授業科目)

第10条 (省略)

第11条 人間生活学部の授業科目は、大学共通科目、学科専門科目及び教職に関する科目とする。

2 人間生活学部の授業科目とその単位数は、別表第1(1)、別表第1(2)②、別表第4(1)から別表第4(4)及び別表第5(2)のとおりとする。

第11条の2 (省略)

第12条～第17条 (省略)

第4章 履修方法及び卒業の要件

第18条～第20条 (省略)

(学位の授与)

第21条 本学を卒業した者には、卒業証書を授与するとともに学士の学位を授与する。

2 本学において授与する、学士の学位に付記する専門分野の名称は、次のとおりとする。

文 学 部	英語文化学科	学士(文学)
	日本語・日本文学科	学士(文学)
	文化総合学科	学士(文学)
<u>人間生活学部</u>	<u>人間生活学科</u>	学士(人間生活学)
	<u>食物栄養学科</u>	学士(食物栄養学)
	子ども教育学科	学士(教育学)

第22条～第22条の4 (省略)

(社会福祉士国家試験受験資格の取得)

第22条の5 人間生活学科の学生で社会福祉士国家試験受験資格を取得しようとする者は、社会福祉士及び介護福祉士法並びに社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則等の定めるところに従って、本学が定めた所定の科目について、必要な単位を修得しなければならない。

2 前項に係る実習演習科目の履修方法については、別表第13のとおりとする。

(管理栄養士国家試験受験資格の取得)

第22条の6 食物栄養学科の学生で管理栄養士国家試験受験資格を取得しようとする者は、栄養士法及び管理栄養士学校指定規則の定めるところに従って、本学が定めた所定の科目について、必要な単位を修得しなければならない。

2 前項に係る科目の履修方法については、別表第14のとおりとする。

第5章～第7章 (省略)

第8章 評議会及び教授会

(評議会)

第53条 本学に、評議会を置く。

2 (省略)

3 評議会は、学長が次に掲げる事項について決定を行なうに当たり意見を述べるものとする。

(1) 文学部、ウェルビーイング学部及び人間生活学研究科間の連絡調整に関する事項

(2) 教務部長、学生部長、入試部長、図書館長の選考に関する事項

(3) 入学試験に関する事項

(4) 自己点検・評価に関する事項

(5) その他、大学の教育研究に関する重要な事項で、評議会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもの。

第54条～第57条 (省略)

第9章～第10章 (省略)

附則

1 本学則は、2025年4月1日から施行する。

2 2025年3月31日に在学する者にかかる授業科目及び履修単位数については、
改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

2 前項に係る科目の履修方法については、別表第14のとおりとする。

第5章～第10章 (省略)

第8章 評議会及び教授会

(評議会)

第53条 本学に、評議会を置く。

2 (省略)

3 評議会は、学長が次に掲げる事項について決定を行なうに当たり意見を述べるものとする。

(1) 文学部、人間生活学部及び人間生活学研究科間の連絡調整に関する事項

(2) 教務部長、学生部長、入試部長、図書館長の選考に関する事項

(3) 入学試験に関する事項

(4) 自己点検・評価に関する事項

(5) その他、大学の教育研究に関する重要な事項で、評議会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもの。

第54条～第57条 (省略)

第9章～第10章 (省略)

藤女子大学学則の一部改正 新旧対照表(案)

改正案

現行

別表第1-1 大学共通科目
(略)

別表第1 大学共通科目
(略)

<変更事項>

別表第1-2 基礎教育科目

(1) 教養科目

別表第1-2を新設
区分の変更

区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数	備考	
① 建学の理念科目	キリスト教科目	キリスト教概論	2	2		6科目の中から 1科目以上 選択必修
		キリスト教と藤女子大学	2		2	
		キリスト教人間学A	2		2	
		キリスト教人間学B	2		2	
		聖書概論A	2		2	
		聖書概論B	2		2	
		宗教と文化	2		2	
② スタートアップセミナー	スタートアップセミナー	1	1			
③ 教養実践科目	キャリア形成	キャリアデザインⅠ	1	1		
		データサイエンス基礎Ⅰ	2	2		
	数理・データサイエンス・AI教育	データサイエンス基礎Ⅱ	2		2	
		データ分析演習	2		2	
		プログラミング演習	2		2	
		情報処理の基礎	1		1	
		数学	2		2	
		統計学	2		2	
		身体と科学	運動の実践A	1		1
	運動の実践B	1		1		
運動の科学	2		2			
④ 教養コア科目	日本国憲法	2		2	4単位以上 選択必修	
	経済学	2		2		
	社会学	2		2		
	心理学	2		2		
	音楽	2		2		
	美術論	2		2		
	環境科学	2		2		
	生命科学	2		2		
	健康の科学	2		2		
	ジェンダー論	2		2		
	文学	2		2		
	異文化コミュニケーション	2		2		
	国際関係論	2		2		

区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数	備考
人間と宗教	キリスト教概論	2	2		6科目の中から 1科目以上 選択必修
	キリスト教と藤女子大学	2		2	
	キリスト教人間学A	2		2	
	キリスト教人間学B	2		2	
	聖書概論A	2		2	
	聖書概論B	2		2	
	宗教と文化	2		2	
ジェンダー形成	女性とキャリアⅠ	1	1		新設
	女性と労働	2		2	廃止
	女性と法律	2		2	廃止
	ジェンダー論	2		2	区分変更「教養コア科目」へ 履修方法の変更
リテラシー	データサイエンス基礎Ⅰ	2		2	新設
	データサイエンス基礎Ⅱ	2		2	新設
	情報処理の基礎	1		1	
	統計学	2		2	
	文章表現	2		2	廃止
健康	運動の科学	2		2	廃止
	運動の実践A	1		1	
	運動の実践B	1		1	
社会と文化	ライフステージ栄養学	2		2	廃止
	健康の科学	2		2	
	経済学	2		2	
	社会学	2		2	
	日本国憲法	2		2	
	心理学	2		2	
	音楽	2		2	
	美術論	2		2	
	日本語文学	2		2	
	英語圏文学	2		2	
アジア圏文学	2		2		
人間形成	言語学	2		2	廃止
	子ども学	2		2	
	環境科学	2		2	
	生命科学	2		2	
	数学	2		2	
自然・科学	自然と化学	2		2	区分変更「数理・データサイエンス・AI教育」へ 新設
	物理学	2		2	
	文化人類学	2		2	
国際理解	異文化コミュニケーション	2		2	廃止
	国際関係論	2		2	
	国際理解教育	2		2	
歴史	西洋史	2		2	廃止
	日本史A	2		2	

廃止
廃止
廃止
廃止
新設

史・思想	日本史B	2	2	
	東洋史	2	2	
	哲学	2	2	
	倫理学	2	2	
計		90	3	87

(2) 外国語科目

②人間生活学部開講科目

授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数	備考
Academic Communication I	1	1		
Academic Communication II	1	1		
Essential Vocabulary & Grammar	1		1	
Interactive English A	1		1	
Interactive English B	1		1	
Practical English A	1		1	
Practical English B	1		1	
Academic Listening & Note-taking	1		1	
Academic Speaking & Discussion	1		1	
Academic Reading I	1		1	
Academic Reading II	1		1	
Skills for the TOEFL I	1		1	
Skills for the TOEFL II	1		1	
English for Global Communication	1		1	
CLIL English	1		1	
初級ドイツ語 I	1		1	
初級ドイツ語II	1		1	
中級ドイツ語 I	1		1	
中級ドイツ語II	1		1	
上級ドイツ語 I	1		1	
上級ドイツ語II	1		1	
初級フランス語 I	1		1	
初級フランス語II	1		1	
中級フランス語 I	1		1	
中級フランス語II	1		1	
上級フランス語 I	1		1	
上級フランス語II	1		1	
初級中国語 I	1		1	
初級中国語II	1		1	
中級中国語 I	1		1	
中級中国語II	1		1	
上級中国語 I	1		1	
上級中国語II	1		1	
中国語実践演習 A	2		2	
中国語実践演習 B	2		2	
初級韓国語 I	1		1	
初級韓国語II	1		1	
中級韓国語 I	1		1	
中級韓国語II	1		1	
上級韓国語 I	1		1	
上級韓国語II	1		1	
韓国語実践演習 A	2		2	
韓国語実践演習 B	2		2	
海外語学研修 A	2		2	
海外語学研修 B	2		2	
海外語学研修 C	2		2	
海外語学研修 D	1		1	
海外語学研修 E	1		1	

⑥外国語科目

ク	プロジェクト入門	2		2	
ト	プロジェクト実践	2		2	
エ					
シ					
ユ					
ク	Academic Communication I	1	1		
ト	Academic Communication II	1	1		
エ	Essential Vocabulary & Grammar	1		1	
シ	Interactive English A	1		1	
ユ	Interactive English B	1		1	
ク	Practical English A	1		1	
ト	Practical English B	1		1	
エ	Academic Listening & Note-taking	1		1	
シ	Academic Speaking & Discussion	1		1	
ユ	Academic Reading I	1		1	
ク	Academic Reading II	1		1	
ト	Skills for the TOEFL I	1		1	
エ	Skills for the TOEFL II	1		1	
シ	English for Global Communication	1		1	
ユ	CLIL English	1		1	
ク	初級ドイツ語 I	1		1	
ト	初級ドイツ語II	1		1	
エ	中級ドイツ語 I	1		1	
シ	中級ドイツ語II	1		1	
ユ	上級ドイツ語 I	1		1	
ク	上級ドイツ語II	1		1	
ト	初級フランス語 I	1		1	
エ	初級フランス語II	1		1	
シ	中級フランス語 I	1		1	
ユ	中級フランス語II	1		1	
ク	上級フランス語 I	1		1	
ト	上級フランス語II	1		1	
エ	初級中国語 I	1		1	
シ	初級中国語II	1		1	
ユ	中級中国語 I	1		1	
ク	中級中国語II	1		1	
ト	上級中国語 I	1		1	
エ	上級中国語II	1		1	
シ	中国語実践演習 A	2		2	
ユ	中国語実践演習 B	2		2	
ク	初級韓国語 I	1		1	
ト	初級韓国語II	1		1	
エ	中級韓国語 I	1		1	
シ	中級韓国語II	1		1	
ユ	上級韓国語 I	1		1	
ク	上級韓国語II	1		1	
ト	韓国語実践演習 A	2		2	
エ	韓国語実践演習 B	2		2	
シ	海外語学研修 A	2		2	
ユ	海外語学研修 B	2		2	
ク	海外語学研修 C	2		2	
ト	海外語学研修 D	1		1	
エ	海外語学研修 E	1		1	

海外語学研修F	1		1	
オンライン語学研修A	2		2	
オンライン語学研修B	2		2	
オンライン語学研修C	1		1	
オンライン語学研修D	1		1	
オンライン語学研修E	1		1	
オンライン語学研修F	1		1	
計	127	8	119	

<第11条関係>

海外語学研修F	1		1	
オンライン語学研修A	2		2	
オンライン語学研修B	2		2	
オンライン語学研修C	1		1	
オンライン語学研修D	1		1	
オンライン語学研修E	1		1	
オンライン語学研修F	1		1	
計	64	2	62	

<第11条関係>

附則

- 1 本学則は、2025年4月1日から施行する。
- 2 2025年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数	
ライフサイエンス	衣生活科学	現代衣生活論	2	2	
		服飾文化史	2		2
		衣造形実習	2		2
		テキスタイル工芸実習	2		2
		被服学実験	2		2
	食生活科学	現代食生活論	2	2	
		食物の科学	2		2
		食生活と文化	2		2
		食生活と栄養	2		2
		調理学実習	2		2
	食物学実験	2		2	
	住生活科学	現代住生活論	2	2	
		住居計画	2		2
		住生活文化論	2		2
		北国の暮らしと居住環境	2		2
		住居デザイン演習 I	2		2
	住居デザイン演習 II	2		2	
	家庭経営・家族学	家族関係論	2	2	
		現代の生活経済	2		2
		消費者教育論	2		2
家族と法律		2		2	
男女共同参画社会と女性		2		2	
子ども・生涯発達科学	子どもの発達と保育	2		2	
	子ども家庭福祉	2		2	
	子どもと社会	2		2	
	心と体の日常生活支援	1		1	
	高齢期とライフステージ	1		1	
発達と心理	2		2		
社会福祉学	ソーシャルワーク論	2	2		
	ソーシャルワーク演習	2		2	
	福祉政策論	2		2	
	高齢者福祉論	2		2	
	暮らしと社会保障	2		2	
	地域生活と福祉	2		2	
ユニバーサルデザイン	2		2		

専修	区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数
現代家政	衣生活	現代衣生活論	2		2
		服飾美学	1		1
		色彩の錯視と衣服	1		1
		衣造形実習	2		2
		テキスタイル工芸実習	2		2
	被服学実験	2		2	
	食生活	現代食生活論	2		2
		食品の成分と機能	1		1
		食べ物の材料学	1		1
		食生活と栄養	2		2
		調理学実習	2		2
	食物学実験	2		2	
	住生活	現代住生活論	2		2
		住居計画	2		2
		まちづくり論	2		2
		住居デザイン演習 I	2		2
		住居デザイン演習 II	2		2
	生活経営・家族	現代の生活経済	2		2
		家族と社会	2		2
		消費者問題	2		2
男女共同参画社会と女性		2		2	
家族と法律		2		2	
生涯発達	子育ての比較文化	2		2	
	子どもの発達と保育	2		2	
	日常生活活動	1		1	
	加齢と障害	1		1	
	発達と心理	2		2	
	生活技術	2		2	
	総合	北国のライフコーディネート	2		2
	ユニバーサルデザイン	2		2	

専修廃止・区分名変更
履修方法変更
名称変更 単位数変更
廃止

履修方法変更
統合
新設

履修方法変更
新設
名称変更

名称変更「家族と社会」 履修方法変更
名称変更「家族関係論」
名称変更

名称変更「子どもと社会」
区分変更（利用者、制度・サービスの理解から）
名称変更「子ども家庭福祉論Ⅱ」
名称変更「子育ての比較文化」
名称変更
名称変更

廃止
区分新設
名称変更「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」
区分変更（社会福祉から） 選択から必修へ
区分変更（社会福祉士の役割・機能の理解から）
名称変更「ソーシャルワーク演習Ⅰ」
名称変更「社会福祉の原理と政策Ⅰ」
区分変更（制度・サービス、地域・社会のしくみの理解から）
名称変更「高齢者福祉論Ⅰ」 区分変更（社会福祉から）
名称変更「社会保障サービス」 区分変更（社会福祉から）
名称変更「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ」
区分変更（制度・サービス、地域・社会のしくみの理解から）
廃止

区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数	
プロジェクトマネジメント					
	ワークショップ	ワークショップ入門	2		2
		ワークショップデザイン	2		2
		論理的思考とデザイン思考	2	2	
		プレゼンテーションの技法	2		2
		映像表現の技法	2		2
		ファシリテーショングラフィック入門	2		2
		インストラクショナルデザイン入門	2		2
	ソーシャルラーニング	地域社会調査法	2		2
		インタビューの技法	2		2
		統計調査と地域創生	2		2
		北海道の地域と文化	2		2
		マーケティングリサーチ	2		2
組織マネジメント論		2		2	
地域資源活用法		2		2	
スタートアップ基礎演習	2		2		
	メディア総論	2	2		
ジュニアプロジェクト	プロジェクトマネジメントⅠ	4		4	
	プロジェクトマネジメントⅡ	4		4	
	プロジェクトマネジメントⅢ	2		2	

専修	区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数
プロジェクトマネジメント	学びの技法	論理的思考の技法	1		1
		デザイン思考の技法	1		1
		プレゼンテーションの技法	1		1
		議論の技法	1		1
		写真の表現技法	2		2
		動画の表現技法	2		2
		インタビュー調査の技法	2		2
		ソーシャルメディア活用の技法	2		2
	アンケート調査の技法	2		2	
	ワークショップデザイン	ワークショップ入門	2		2
		ワークショップデザイン	2		2
		ワークショップデザイン基礎演習	2		2
		協同学習入門	2		2
レクリエーション入門		1		1	
アイスブレイク入門		1		1	
ファシリテーション演習	2		2		
	ファシリテーショングラフィック入門	1		1	
	インストラクショナルデザイン入門	2		2	
ソーシャルラーニング	人間関係と心理	2		2	
	統計調査と北海道	2		2	
	統計調査と心理	2		2	
	北海道の文化と女性	2		2	
	マーケティングリサーチ	2		2	
	組織マネジメント論	2		2	
	国際社会と女性	2		2	
	社会的起業と女性	2		2	
	地域資源活用法	2		2	
	広報・メディアと女性	2		2	
ジュニアプロジェクト	プロジェクトマネジメントⅠ	2		2	
	プロジェクトマネジメントⅡ	2		2	
	プロジェクトマネジメントⅢ	2		2	

専修廃止・区分名変更
 区分変更（ワークショップへ）
 統合「論理的思考とデザイン思考」
 区分変更（ワークショップへ）
 廃止
 区分変更（ワークショップへ）
 統合「映像表現の技法」
 区分変更（ワークショップへ）
 名称変更「インタビューの技法」
 「広報・メディアと女性」と統合「メディア総論」
 廃止

区分変更（学びの技法から）統合 履修方法変更
 区分変更（学びの技法から）単位数変更
 区分変更（学びの技法から）統合
 廃止
 廃止
 廃止
 廃止
 廃止
 単位数変更

新設
 区分変更（総合・地域創生の基礎へ）
 名称変更「ワークライフキャリアデザイン」
 区分変更（学びの技法から）
 名称変更「インタビュー調査の技法」
 名称変更
 廃止
 名称変更「北海道の地域と文化」
 廃止
 廃止

新設
 「ソーシャルメディア活用の技法」と統合 履修方法変更
 単位数変更
 単位数変更

区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数	
データサイエンス	基礎	データサイエンス入門	2	2	
		AI入門	2	2	
		ICT入門A	2		2
		ICT入門B	2		2
		生活とデータ	2		2
	応用	モバイルアプリケーション演習	2		2
		ICT・データサイエンスの活用演習	2		2
		データサイエンス応用プロジェクト	2		2
		計	154	32	122

専修	区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数
		計	233	20	213

専修廃止・区分名変更

新設

新設

新設

新設

新設

新設

新設

新設

新設

合計単位数変更

<第11条関係>

附則

- 1 本学則は、2025年4月1日から施行する。
- 2 2025年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

◎改正理由：2025年度人間生活学部名称変更に関わる変更

藤女子大学学則の一部改正 新旧対照表(案)

改正案					現行					変更事項	
別表第4 ウェルビーイング学部 学科専門科目 (2) 食環境マネジメント学科					別表第4 人間生活学部 学科専門科目 (2) 食物栄養学科					名称変更 名称変更	
区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数	専修	区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数	専修廃止
境社 と 健・環 康	公衆衛生学A	2	2		境社 と 健・環 康	食生活論		2	2		専修廃止
	公衆衛生学B	2	2			公衆衛生学A	2	2			
	高齢者健康論	2		2		公衆衛生学B	2	2			
						高齢者健康論	2		2		
人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 疾 病 の 成 り 立 ち	生化学	2	2		人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 疾 病 の 成 り 立 ち	生化学A	2	2		名称変更 廃止	
	解剖生理学A	2	2			生化学B	2	2			
	解剖生理学B	2	2			解剖生理学A	2	2			
	解剖生理学実験	2	2			解剖生理学B	2	2			
	疾病医療学A	2	2			解剖生理学実験	2	2			
	疾病医療学B	2	2			疾病医療学A	2	2			
	疾病医療学C	2	2			疾病医療学B	2	2			
	分子栄養学	2		2		疾病医療学C	2	2			
	栄養生理学・生化学実験	1	1			分子栄養学	2		2		
				栄養生理学・生化学実験	1	1					
食 べ 物 と 健 康	食品化学	2	2		管 理 栄 養 士 専 修	食品化学A	1	1		名称変更 単位数変更 廃止 廃止 統合 統合 廃止 廃止 廃止 廃止 統合変更(総合へ)	
	食品加工学	2	2			食品化学B	2	2			
	食品実験 I	2	2			食品化学C	1		1		
	食品実験 II	1	1			食品加工学 I	1	1			
	調理科学	2	2			食品加工学 II	1		1		
	調理実習 I	2	2			食品実験 I	2	2			
	調理実習 II	2	2			食品実験 II	1	1			
	食品衛生学	2	2			食品機能学 I	1		1		
						食品機能学 II	1		1		
						調理科学	2	2			
						調理実習 I	2	2			
				調理実習 II	2	2					
学 基 養 礎	基礎栄養学	2	2		学 基 養 礎	微生物学	2	2		廃止	
						食品衛生学	2	2			
						食品開発論	2		2		
						基礎栄養学	2	2			

区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数
応用栄養学	食事摂取基準論	2	2	
	ライフステージ応用栄養学	2	2	
	環境・スポーツ栄養学	2	2	
	応用栄養学実習	2	2	
栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2	2	
	栄養教育論Ⅱ	2	2	
	栄養教育論演習Ⅰ	1	1	
	栄養教育論演習Ⅱ	1	1	
	栄養教育論実習	1	1	
臨床栄養学	臨床栄養学A	2	2	
	臨床栄養学B	2	2	
	臨床栄養学C	2	2	
	臨床栄養管理論	2	2	2
	臨床栄養学実習Ⅰ	2	2	
	臨床栄養学実習Ⅱ	2	2	2
	実践臨床栄養学	2	2	2
公衆栄養学	公衆栄養学A	2	2	
	公衆栄養学B	2	2	
	地域栄養学実習	1	1	1
給食管理論	給食経営管理論Ⅰ	2	2	
	給食経営管理論Ⅱ	2	2	
	給食経営管理実習Ⅰ	2	2	
総合演習	総合演習A	1	1	
	総合演習B	1	1	1
	対人関係トレーニング	1	1	
	管理栄養士演習Ⅰ	2	2	2
	管理栄養士演習Ⅱ	2	2	2
実習地	臨床栄養学実習Ⅲ	2	2	
	公衆栄養学実習	1	1	
	給食経営管理実習Ⅱ	1	1	
	管理栄養士実務実習	2	2	2

専修	区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数
管理栄養士専修	応用栄養学	食事摂取基準論	2	2	
		ライフステージ応用栄養学	2	2	
		環境・スポーツ栄養学	2	2	
		応用栄養学実習	2	2	
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2	2	
		栄養教育論Ⅱ	2	2	
		栄養教育論演習Ⅰ	1	1	
		栄養教育論演習Ⅱ	1	1	
		栄養教育論実習	1	1	
	臨床栄養学	臨床栄養学A	2	2	
		臨床栄養学B	2	2	
		臨床栄養学C	2	2	
		臨床栄養管理論	2	2	2
		臨床栄養学実習Ⅰ	2	2	
		臨床栄養学実習Ⅱ	2	2	2
		実践臨床栄養学	2	2	2
	公衆栄養学	公衆栄養学A	2	2	
		公衆栄養学B	2	2	
		地域栄養学実習	1	1	1
	給食管理論	給食経営管理論Ⅰ	2	2	
給食経営管理論Ⅱ		2	2		
給食経営管理実習Ⅰ		2	2		
総合演習	総合演習A	1	1		
	総合演習B	1	1	1	
	対人関係トレーニング	1	1		
実習地	臨床栄養学実習Ⅲ	2	2		
	公衆栄養学実習	1	1		
	給食経営管理実習Ⅱ	1	1		
	管理栄養士実務実習	2	2	2	

専修廃止

区分変更(総合から)

区分変更(総合から)

区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数
総合	食環境とウェルビーイング	2	2	
	栄養士のための化学	2		2
	ストレスマネジメント論	2		2
	科学英語	1		1
	学校栄養教育 I	2		2
	学校栄養教育 II	2		2
	社会調査演習	1		1
	社会調査実習	2		2
	栄養統計学	2		2
	食品開発論	2		2
	食品開発マネジメント実習	2		2
	卒業演習 I	0.5	0.5	
	卒業演習 II	1.5	1.5	
	卒業研究	6		6
計		121	79	42

<第11条関係>

専修	区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数
	その他	栄養士のための化学A	2		2
		栄養士のための化学B	2		2
		科学英語	1		1
		学校栄養教育 I	2		2
		学校栄養教育 II	2		2
		社会調査演習	1		1
		社会調査実習	2		2
		栄養統計学	2		2
		食デザイン論	2		2
		管理栄養士演習 I	2		2
		管理栄養士演習 II	2		2
		卒業演習 I	0.5	0.5	
		卒業演習 II	1.5	1.5	
		卒業研究	6		6
計		129	83	46	

<第11条関係>

専修廃止
区分名変更
新設
名称変更
廃止
新設

区分変更(食べ物と健康から)
新規
廃止
区分変更(総合演習へ)
区分変更(総合演習へ)

合計単位数変更

附則

- 1 本学則は、2025年4月1日から施行する。
- 2 2025年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

◎改正理由：2025年度人間生活学部名称変更に関わる変更

藤女子大学学則の一部改正 新旧対照表(案)

<変更事項>
名称変更

改正案					別表第4 人間生活学部 学科専門科目						
別表第4 ウェルビーイング学部 学科専門科目					別表第4 人間生活学部 学科専門科目						
(3) 子ども教育学科					(3) 子ども教育学科						
区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数	区分	授業科目	開設単位数	必修単位数	選択単位数		
保育・教育の理論	教育原理	2	2		保育・教育の理論	教育原理	2	2			
	保育原理	2		2		保育原理	2		2		
	教師・保育者論	2		2		教師・保育者論	2		2		
	教育方法論（情報通信技術の活用含む）	2		2		教育方法論（情報通信技術の活用含む）	2		2		
	教育制度論	2		2		教育制度論	2		2		
	教育課程総論（全体的な計画を含む）	2		2		教育課程総論（全体的な計画を含む）	2		2		
	保幼小連携特論	2		2		保幼小連携特論	2		2		
	学級経営論	2		2		学級経営論	2		2		
	道徳教育の理論と実践	2		2		道徳教育の理論と実践	2		2		
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2		2		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2		2		
	地域社会と学校	2		2		地域社会と学校	2		2		
	現代社会と教育	2		2		現代社会と教育	2		2		
	子どもの理解	教育心理学	2			2	子どもの理解	教育心理学	2		2
		学校教育心理学	2			2		学校教育心理学	2		2
発達心理学		2	2		発達心理学	2		2			
児童期以降の発達と心理		2		2	児童期以降の発達と心理	2			2		
子どもの理解と発達援助		2		2	子どもの理解と発達援助	2			2		
幼児理解と援助		2		2	幼児理解と援助	2			2		
特別な教育的ニーズに対する理解と支援		2		2	特別な教育的ニーズに対する理解と支援	2			2		
特別支援教育総論		2	2		特別支援教育総論	2		2			
特別支援教育実践論		2		2	特別支援教育実践論	2			2		
知的障害児の心理・生理・病理		2		2	知的障害児の心理・生理・病理	2			2		
肢体不自由児の心理・生理・病理		2		2	肢体不自由児の心理・生理・病理	2			2		
病弱児の心理・生理・病理		2		2	病弱児の心理・生理・病理	2			2		
知的障害児教育		2		2	知的障害児教育	2			2		
肢体不自由児教育		2		2	肢体不自由児教育	2			2		
病弱児教育		2		2	病弱児教育	2			2		
知的障害児教育総論		2		2	知的障害児教育総論	2			2		
肢体不自由児教育総論	2		2	肢体不自由児教育総論	2		2				
子ども教育専	視覚・聴覚障害児の心理・生理・病理	1		1	子ども教育専	視覚・聴覚障害児の心理・生理・病理	1		1		
	重複・発達障害児の心理・生理・病理	2		2		重複・発達障害児の心理・生理・病理	2		2		
	視覚・聴覚障害児教育総論	1		1		視覚・聴覚障害児教育総論	1		1		
	重複・発達障害児教育総論	2		2		重複・発達障害児教育総論	2		2		

守 修	保育・教育の内容	総合表現	2		2
		国語（書写含む）	2		2
		社会	2		2
		算数	2		2
		理科	2		2
		生活	2		2
		音楽	2		2
		音楽表現法	2		2
		図画工作	2		2
		造形表現法	2		2
		家庭	2		2
		初等体育	2		2
		スポーツ実技A（水泳）	1		1
		スポーツ実技B（スキー）	1		1
		英語	2		2
		保育内容（健康）	1		1
		保育内容（人間関係）	1		1
		保育内容（環境）	1		1
		保育内容（言葉）	1		1
	保育内容（表現）	1		1	
保育内容・教科の指導法	国語科教育法	2		2	
	社会科教育法	2		2	
	算数科教育法	2		2	
	理科教育法	2		2	
	生活科教育法	2		2	
	音楽科教育法	2		2	
	図画工作科教育法	2		2	
	家庭科教育法	2		2	
	体育科教育法	2		2	
	英語科教育法	2		2	
	保育内容総論	1		1	
	保育内容の指導法（健康）	2		2	
	保育内容の指導法（人間関係）	2		2	
	保育内容の指導法（環境）	2		2	
	保育内容の指導法（言葉）	2		2	
保育内容の指導法（表現）	2		2		
の保育・教育の理論	社会福祉論	2	2	2	
	子ども家庭福祉論	2	2	2	
	社会的養護	2	2	2	
	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	2	2	2	
	特別支援教育と福祉	2	2	2	
	教育相談の理論と方法	2	2	2	
子ども理解	家庭支援論	2		2	
	子どもの保健	2		2	
	子どもの健康と安全	2		2	
	子どもの食と栄養	2		2	

守 修	保育・教育の内容	総合表現	2		2
		国語（書写含む）	2		2
		社会	2		2
		算数	2		2
		理科	2		2
		生活	2		2
		音楽	2		2
		音楽表現法	2		2
		図画工作	2		2
		造形表現法	2		2
		家庭	2		2
		初等体育	2		2
		スポーツ実技A（水泳）	1		1
		スポーツ実技B（スキー）	1		1
		英語	2		2
		保育内容（健康）	1		1
		保育内容（人間関係）	1		1
		保育内容（環境）	1		1
		保育内容（言葉）	1		1
	保育内容（表現）	1		1	
保育内容・教科の指導法	国語科教育法	2		2	
	社会科教育法	2		2	
	算数科教育法	2		2	
	理科教育法	2		2	
	生活科教育法	2		2	
	音楽科教育法	2		2	
	図画工作科教育法	2		2	
	家庭科教育法	2		2	
	体育科教育法	2		2	
	英語科教育法	2		2	
	保育内容総論	1		1	
	保育内容の指導法（健康）	2		2	
	保育内容の指導法（人間関係）	2		2	
	保育内容の指導法（環境）	2		2	
	保育内容の指導法（言葉）	2		2	
保育内容の指導法（表現）	2		2		
の保育・教育の理論	社会福祉論	2	2	2	
	子ども家庭福祉論	2	2	2	
	社会的養護	2	2	2	
	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	2	2	2	
	特別支援教育と福祉	2	2	2	
	教育相談の理論と方法	2	2	2	
子ども理解	家庭支援論	2		2	
	子どもの保健	2		2	
	子どもの健康と安全	2		2	
	子どもの食と栄養	2		2	

生活支援専修	内容 保育・教育の	子ども文化論	2		2
		乳児保育Ⅰ	2		2
		乳児保育Ⅱ	1		1
		社会的養護内容	2		2
		子どもの遊びと学び	2		2
	の子どもと家族支援	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ	2		2
		児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅱ	2		2
		子ども家庭支援の心理学	2		2
		子育て支援（演習）	2		2
		子育て支援（講義）	2		2
		生徒指導・進路指導	2		2
共通	実習	児童館実習指導	1		1
		児童館実習	2		2
		保育実習指導Ⅰ（保育所）	1		1
		保育実習Ⅰ（保育所）	2		2
		保育実習指導Ⅰ（福祉施設）	1		1
		保育実習Ⅰ（福祉施設）	2		2
		保育実習指導Ⅱ（保育所）	1		1
		保育実習Ⅱ（保育所）	2		2
		保育実習指導Ⅱ（福祉施設）	1		1
		保育実習Ⅱ（福祉施設）	2		2
		保育実習指導Ⅱ（児童館）	1		1
		保育実習Ⅱ（児童館）	2		2
		教育実習指導（特別支援学校）	1		1
		教育実習（特別支援学校）	2		2
		教育実習指導（幼稚園・小学校）	1		1
		教育実習（幼稚園・小学校）	4		4
		専門研究法	子どもとウェルビーイング	1	1
研究調査法	2			2	
臨床発達検査法	2			2	
保育・教職実践演習（幼稚園・小学校）	2			2	
専門演習	2		2		
卒業研究演習	2			2	
卒業研究	2			2	
	208	11		197	

生活支援専修	内容 保育・教育の	子ども文化論	2		2
		乳児保育Ⅰ	2		2
		乳児保育Ⅱ	1		1
		社会的養護内容	2		2
		子どもの遊びと学び	2		2
	の子どもと家族支援	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ	2		2
		児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅱ	2		2
		子ども家庭支援の心理学	2		2
		子育て支援（演習）	2		2
		子育て支援（講義）	2		2
		生徒指導・進路指導	2		2
共通	実習	児童館実習指導	1		1
		児童館実習	2		2
		保育実習指導Ⅰ（保育所）	1		1
		保育実習Ⅰ（保育所）	2		2
		保育実習指導Ⅰ（福祉施設）	1		1
		保育実習Ⅰ（福祉施設）	2		2
		保育実習指導Ⅱ（保育所）	1		1
		保育実習Ⅱ（保育所）	2		2
		保育実習指導Ⅱ（福祉施設）	1		1
		保育実習Ⅱ（福祉施設）	2		2
		保育実習指導Ⅱ（児童館）	1		1
		保育実習Ⅱ（児童館）	2		2
		教育実習指導（特別支援学校）	1		1
		教育実習（特別支援学校）	2		2
		教育実習指導（幼稚園・小学校）	1		1
		教育実習（幼稚園・小学校）	4		4
		専門研究法	スタートアップセミナー	2	2
研究調査法	2			2	
臨床発達検査法	2			2	
保育・教職実践演習（幼稚園・小学校）	2			2	
専門演習	2		2		
卒業研究演習	2			2	
卒業研究	2			2	
	209	12		197	

廃止
新設

附則

- 1 本学則は、2025年4月1日から施行する。
- 2 2025年3月31日に在学する者にかかわる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

◎改正理由：2025年度人間生活学部名称変更に関わる変更

藤女子大学学則の一部改正 新旧対照表(案)

改正案	現行
-----	----

別表第7 ウェルビーイング学部 履修方法と卒業必要単位数

(1) 地域創生学科

授業科目区分 単位区分	基盤教育科目						地域創生学科 専門科目
	①建学の 理念 科目	②ス タート アップ セミナー	③教養 実践科 目	④教養 コア科 目	⑤藤 プロ ジェクト	⑥外国 語科目	
必修単位	2単位	1単位	3単位			2単位	32単位
選択必修単位	2単位 以上			4単位 以上		4単位 以上	20単位以上
選択単位							24単位以上
自由選択単位	30単位以上						
卒業必要 単位数合計	124単位以上						

- ・基盤教育科目は、区分「建学の理念科目」の必修科目以外の科目から2単位以上、区分「教養コア科目」から4単位以上、区分「外国語科目」から4単位以上選択必修。
- ・学科専門科目は、小区分「地域創生の基礎」「衣生活科学」「食生活科学」「住生活科学」「家庭経営・家族学」「子ども・生涯発達科学」「社会福祉学」「ワークショップデザイン」「ソーシャルラーニング」「応用」からそれぞれ2単位以上選択必修。

- ※他学科専門科目は、12単位まで自由選択単位として算入できる。
- ※教員免許に関する科目（「指導法に関する科目等」）は、指定された科目のうち12単位まで自由選択単位として算入できる。
- ※他学部学科専門科目及び協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、合わせて12単位まで自由選択単位として算入できる。
- ※他大学等で修得した単位は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

< 第18条関係 >

別表第7 人間生活学部 履修方法と卒業必要単位数

(1) 人間生活学科

授業科目区分 単位区分	大学共通科目		人間生活学科 専門科目
	教養科目	外国語科目	
必修単位	3単位	2単位	20単位
選択必修単位	10単位以上	4単位以上	40単位以上(*)
選択単位	11単位以上		
自由選択単位	37単位以上		
卒業必要 単位数合計	127単位以上		

- ・教養科目は、区分「人間と宗教」から2単位以上、区分「人間形成」のうち、「国際理解」「社会と文化」「歴史・思想」から2単位以上、「自然・科学」「健康」から2単位以上、区分「リテラシー」から4単位以上選択必修。
- (*)2年次からは、「現代家政専修」、「社会福祉専修」、「プロジェクトマネジメント専修」の3専修のうち、選択した専修の条件に従って履修する。人間生活学科専門科目の選択必修単位は、所属する専修が指定する科目から40単位以上修得する。その内、次のとおり専修ごとに定める科目の単位を必ず修得すること。
 - ・現代家政専修の場合、12単位。
 - ・社会福祉専修の場合、10単位。
 - ・プロジェクトマネジメント専修の場合、20単位。
- ※他学科専門科目は、12単位まで自由選択単位として算入できる。
- ※教員免許に関する科目（「指導法に関する科目等」）は、指定された科目のうち12単位まで自由選択単位として算入できる。
- ※他学部学科専門科目及び協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、合わせて12単位まで自由選択単位として算入できる。
- ※他大学等で修得した単位は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

< 第18条関係 >

(2) 食環境マネジメント学科

授業科目区分 単位区分	基盤教育科目						食環境マネジメント 専門科目
	①建学の 理念 科目	②ス タート アップ セミナー	③教養 実践科 目	④教養 コア科 目	⑤藤 プロ ジェ クト	⑥外国 語科目	
必修単位	2単位	1単位	3単位			2単位	7.9単位
選択必修単位	2単位 以上			4単位 以上		4単位 以上	
選択単位							2.7単位以上
自由選択単位	2単位以上						
卒業必要 単位数合計	12.6単位以上						

・基盤教育科目は、区分「建学の理念科目」の必修科目以外の科目から2単位以上、区分「教養コア科目」から4単位以上、区分「外国語科目」から4単位以上選択必修。

※他学科専門科目、他学部学科専門科目、教員免許に関する科目（「指導法に関する科目等」）（指定科目）及び協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、合わせて8単位まで選択単位として算入できる。

< 第18条関係 >

(2) 食物栄養学科

授業科目区分 単位区分	大学共通科目		食物栄養学科 専門科目
	教養科目	外国語科目	
必修単位	3単位	2単位	8.3単位
選択必修単位	8単位以上	4単位以上	
選択単位	1.3単位以上		1.5単位以上
自由選択単位	2単位以上		
卒業必要 単位数合計	13.0単位以上		

・教養科目は、区分「人間と宗教」から2単位以上、区分「人間形成」のうち、「国際理解」「社会と文化」「歴史・思想」から2単位以上、「自然・科学」「健康」から2単位以上、区分「リテラシー」から2単位以上選択必修。

※他学科専門科目、他学部学科専門科目、教員免許に関する科目（「指導法に関する科目等」）（指定科目）及び協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、合わせて8単位まで選択単位として算入できる。

< 第18条関係 >

(3) 子ども教育学科

授業科目区分 単位区分	基盤教育科目						子ども教育学科 専門科目
	①建学の理念 科目	②スタート アップ セミナー	③教養 実践科 目	④教養 コア科 目	⑤藤プロ ジェ クト	⑥外国 語科目	
必修単位	2単位	1単位	3単位			2単位	11単位
選択必修単位	2単位 以上			4単位 以上		4単位 以上	幼免・小免指定科目から 48単位以上
選択単位							
自由選択単位	50単位以上						
卒業必要 単位数合計	127単位以上						

・基盤教育科目は、区分「建学の理念科目」の必修科目以外の科目から2単位以上、区分「教養コア科目」から4単位以上、区分「外国語科目」から4単位以上選択必修。

※他学科専門科目、他学部学科専門科目、協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）及び他大学等で修得した科目は、合わせて8単位まで自由選択単位として算入できる。

<第18条関係>

附則

- 1 本学則は、2025年4月1日から施行する。
- 2 2025年3月31日に在学する者にかかる授業科目及び履修単位数については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

◎改正理由：2025年度人間生活学部改組に関わる変更

(3) 子ども教育学科

授業科目区分 単位区分	大学共通科目		子ども教育学科 専門科目
	教養科目	外国語科目	
必修単位	3単位	2単位	12単位
選択必修単位	8単位以上	4単位以上	幼免・小免指定科目から 48単位以上
選択単位	1単位以上		
自由選択単位	37単位以上		
卒業必要 単位数合計	127単位以上		

・教養科目は、区分「人間と宗教」から2単位以上、区分「人間形成」のうち、「国際理解」「社会と文化」「歴史・思想」から2単位以上、「自然・科学」「健康」から2単位以上、区分「リテラシー」から2単位以上選択必修。

※他学科専門科目、他学部学科専門科目、協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）及び他大学等で修得した科目は、合わせて8単位まで自由選択単位として算入できる。

<第18条関係>